

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣先機関等利用マニュアル

2011 年 11 月 14 日

派遣者氏名（専門分野）	田中 晶子 （ドイツ現代史）
-------------	----------------

派遣期間	2011 年 7 月 28 日 ～ 2011 年 9 月 27 日
------	-----------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
ドイツ連邦共和国	ベルリン	アルタナティブ文化文書館 Archiv für Alternativkultur

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

**【文書館の概要】**

アルタナティブ文化文書館は、フンボルト大学ヨーロッパ民族学研究所に付属する文書館です。コレクションの中心は、1970年代のアルタナティブ・メディアの中心人物であったヨーゼフ・ヴィンチェスが発行した雑誌 *Ulcus Molle Info* と関連史料、ヴィンチェスの蔵書・書簡類、彼が収集した1970～90年代前半の西ドイツおよび英米圏のアルタナティブ新聞・雑誌などである。アルタナティブ文化文書館の HP : <http://www.fis-kultur.de/alternativkultur/>

**【交通アクセス】**

地下鉄利用の場合、シュタット・ミッテかモーレン・シュトラッセ駅で下車後、どちらも徒歩8分ほどで到着。バスを利用する際は、200系統のモーレン・シュトラッセ駅で下車、徒歩約10分。市の中心部にあり、ダンジャルメン・マルクトに近い、法務省の建物の向かい側にある。文書館は研究所の地下1階にあります。

**【利用申請に必要な書類・手続き】**

アルタナティブ文化文書館は、一般には公開されておらず、専属の担当者もいません。本文書館は独立した施設ではなく、他の民族学関係の史料を所蔵する研究所内の文書館の一部として構成されており、利用に際しては、フンボルト大学ヨーロッパ民族学研究所の研究者に直接コンタクトをとり、個人的に交渉して、利用許可をもらう必要があります。事前にメールで訪問目的・滞在期間について利用可能か照会したあと、ドイツ到着後に、再度、詳しい利用目的・訪問期間、文書館の鍵の貸し借りなど、具体的な利用方法について、個別に相談する必要があります。

残念ながら、開館当時の担当研究者はすでに外部に転出してしまっているため、現在、同研究所内にこのコレクションについて管轄している研究者や職員はいません。したがって、史料に関して具体的な質問や相談などは、実施的にできない。基本的に、すべて自分自身で調査をおこなう必要があります。とはいえものの、コレクションは非常に充実しており、主要な所蔵雑誌についてはカタログも検索システムもあるので、あまり心配する必要はありません。

文書館には専用のHP（上記）があり、主要なコレクションの検索が可能です。ただし、実際には、書簡類や蔵書など、記載されていない史料も多くあります。また、文書館内にも、コレクションに関するカタログがあります。

特に夏期・冬期、春期の休暇期間は、研究者が長期で不在だったり、事務局の開館時間も週 3 日、半日程度になったりと、タイミングを逃すと利用できなくなる可能性がある。具体的な利用については、ドイツ到着後に直接、研究者や事務局と打ちあわせをする必要があるので、時間的な余裕をもって準備した方がよいと思います。

利用許可の申請やリサーチ方法については、基本的にすべて個人の交渉次第なので、不明な点については、初回の打ち合わせ時に尋ねておくこと。基本的に外部の利用者は館内でコピーは利用できません。デジタルカメラを持参することをお勧めします。

#### 【注意事項】

注意事項としては、HP 掲載の文書館のメールアドレスが実質的には機能していない（メールは送信可能でも、担当者がいないため返事がこない状態）ので、フンボルト大学ヨーロッパ民族学研究所の研究者に照会した方が確実です。もし心当たりの研究者がいない場合には、事務局のメールアドレス宛てに連絡すれば、メールを転送して、研究所内の適当な研究者に照会してもらえる可能性もあります。

（フンボルト大学ヨーロッパ民族学研究所の HP : <http://www.euroethno.hu-berlin.de/kontakte>）

また、将来的に、文書館の再配置・移転を計画中とのことなので（2011 年 9 月現在）、利用に際しては、事前に早めにコンタクトをとり、利用可能かどうか確認しておいた方が無難です。